

持続可能な環境に配慮した 資源循環型畜産

有限会社臼井農産の取り組み
食品副産物を飼料に、豚の堆肥を畑に

臼井農産の概要

- ・ 神奈川県厚木市で約65年、養豚に取り組んでいます。
- ・ 飼育母豚460頭「あつぎ豚」などを年間約11,000頭出荷。
- ・ 子会社の有限会社大共商事(他)からエコフィード原料を購入、パン屑や菓子屑などを使った飼料を自社で製造しています。
- ・ 全飼料の75～85％にエコフィードを利用。
- ・ 豚の堆肥を使って津久井在来大豆と米を栽培し、
- ・ 味噌や豚漬けに加工して、うすいファームで販売しています。

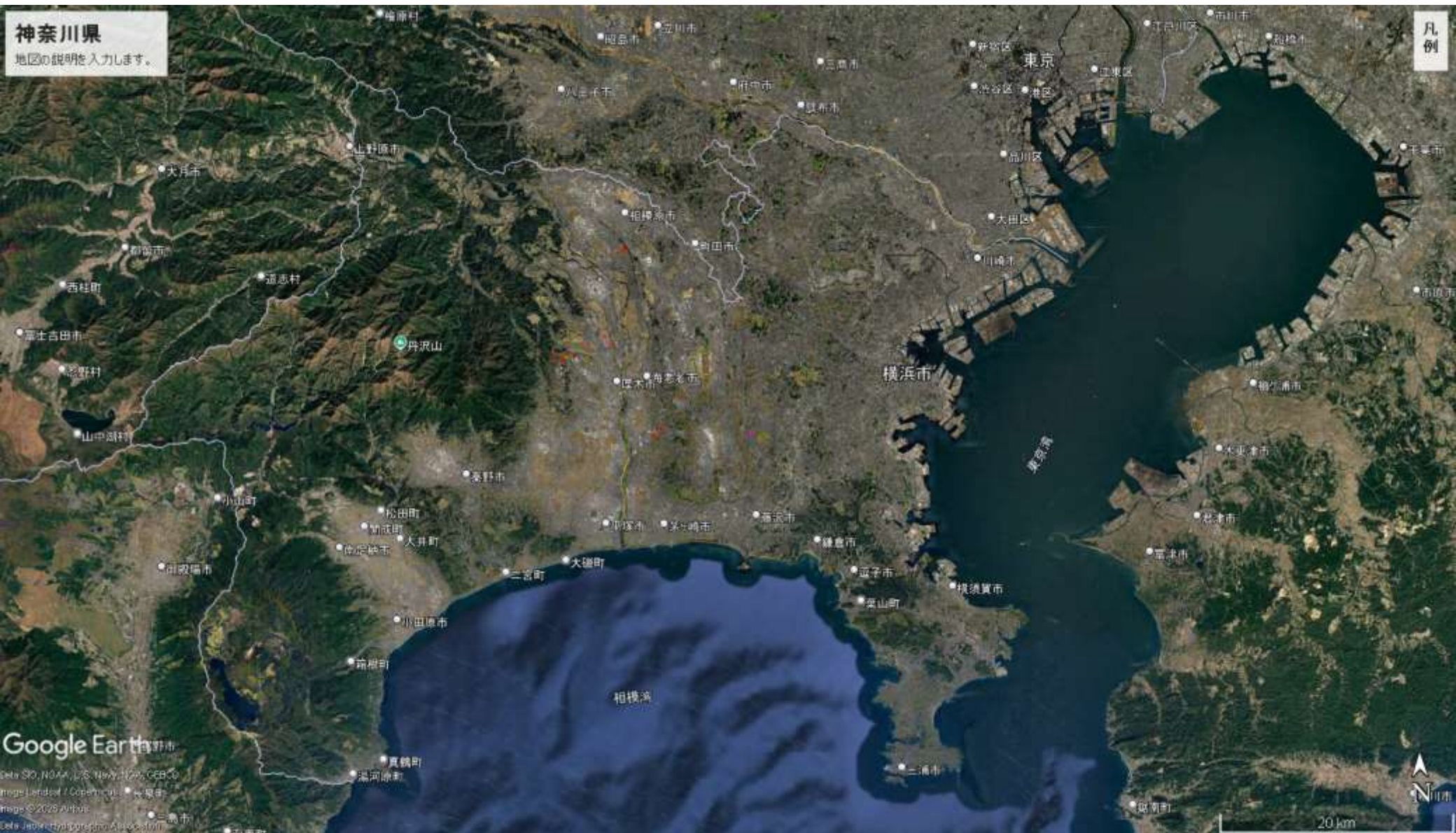


神奈川県
地区の説明を入力します。

凡例

Google Earth

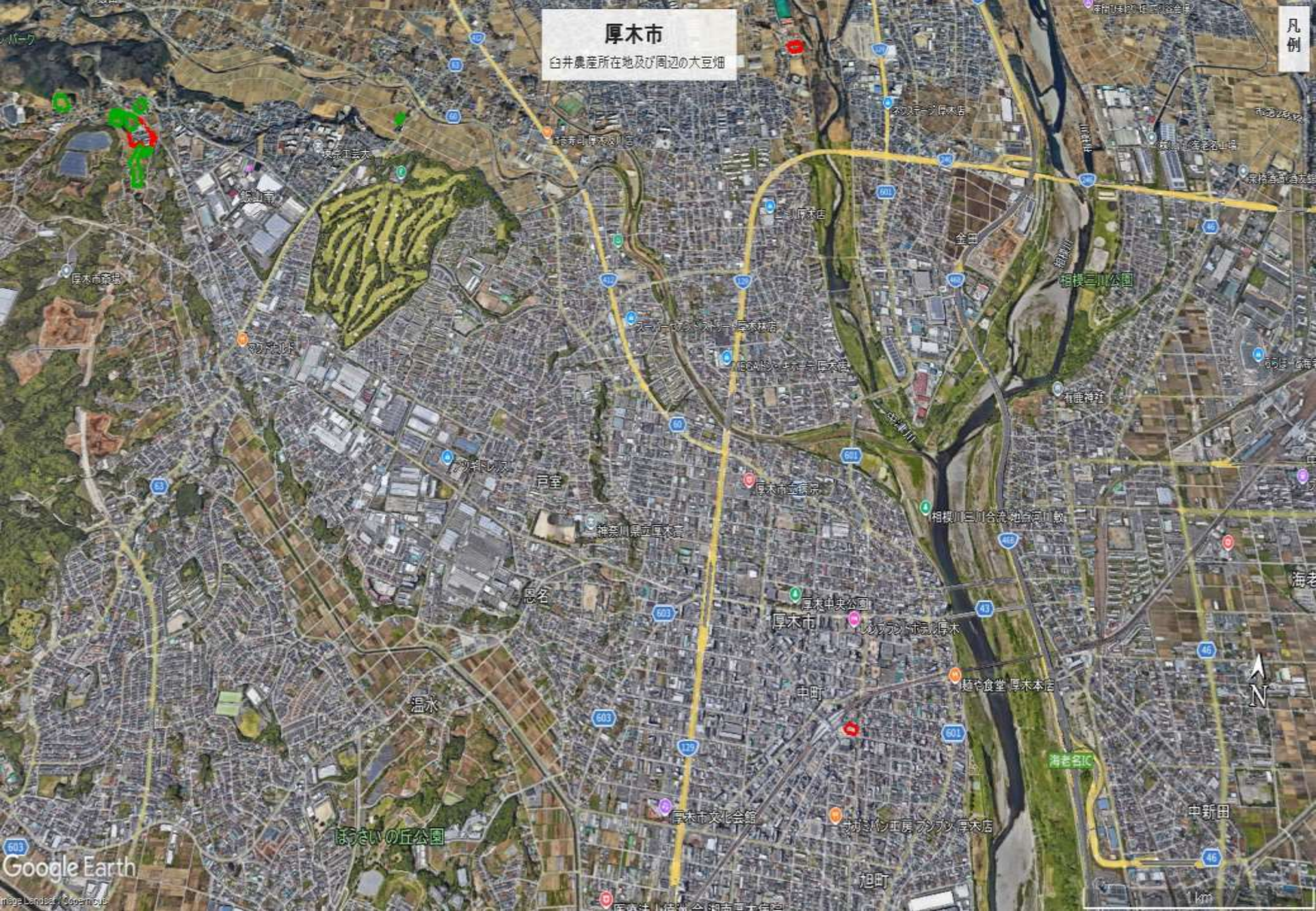
© 2025 Google
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Image Landsat / Copernicus
Map data © 2025 Google
Data JICA, JICA, JICA, JICA, JICA



厚木市

白井農産所在地及び周辺の大豆畑

凡例





1977年



現在までの臭気を含む環境対策の流れ

- ・ 2004年 地域住民から臭気改善の要望を受け、臭気対策への取り組みを開始
- ・ 2006年 畜舎汚水を処理後、公共下水道への排水を開始
- ・ 2006年 自家配合飼料の低蛋白化に取り組み、窒素**排せつ量の低減**を図る
- ・ 2009年 (株)うすいファームを設立し、自社豚肉・惣菜などの地域販売を開始
- ・ 2010年 地元焙煎工場から**乾燥茶粕**を受け入れ、敷料および堆肥の水分調整材として活用(農場から車で約3分)
- ・ 2014年 海外技能実習生の受け入れを開始。養豚技術の習得とともに、農場衛生管理を徹底し、衛生水準を向上
- ・ 2015年 (有)大共商事を子会社化。加熱済み食品副産物の活用を拡大し、飼料用トウモロコシ・大豆粕の購入量を削減。エコフィード原料の利用比率を大幅に高めるとともに、消化吸収性の向上により**糞便排出量を低減**
- ・ 2015年 横浜農場を開設。肥育豚の20%を移動し、肥育豚舎の飼養密度を低減するとともに**糞便排出量を低減**
- ・ 2017年 ウインドレス離乳舎を増設(平成28年度クラスター施設整備補助金を活用)。離乳豚舎の飼養密度を低減
- ・ 2020年 近隣市町村のチョコレート工場から**カカオハスク**を受け入れ、敷料および堆肥の水分調整材として活用
- ・ 2022年 肥育豚ステージにリキッドフィーディングシステムを導入。消化吸収性の高い原料を給与することで、**糞便排出量を低減**

2008年以降現在に至るまで臭気、騒音、害虫などの苦情はいただいておりません

飼料配合表

令和会報報告2020年6月9日			
品名	単位	数量	数量
Feed Name	単位	数量	数量
1. 小麦	kg	800	
2. 大麦	kg	600	
3. 粟	kg	500	
4. コメ	kg	300	
5. コーン	kg	400	
6. 大豆	kg	1000	
7. 大豆	kg	300	
8. 大豆	kg	70	
9. 大豆	kg	25	
10. 大豆	kg	35	
11. 大豆	kg	6000	
12. 大豆	kg	100	
13. 大豆	kg	100	
14. 大豆	kg	420	
15. 大豆	kg	100	
16. 大豆	kg	100	
17. 大豆	kg	100	
18. 大豆	kg	100	
19. 大豆	kg	100	
20. 大豆	kg	100	
合計		4975.6	

ウーロン茶粕



カカオハスクを敷料にした状態



うすいファーム



増設したウインドレス離乳豚舎



現在行っている臭気対策のポイント(まとめ)

①密閉縦型発酵装置の発酵状態管理による臭気抑制

水分調整と発酵状態の安定、臭気抑制のために乾燥茶粕、カカオハスクを投入

②畜舎排水の公共下水道への放流

畜舎汚水を浄化槽で処理してから公共下水道に排水

③豚舎の清掃の徹底

- ・ 一日一回の豚舎清掃を徹底
- ・ 豚を出荷・移動した後は、生石灰に水を加えて発熱させたものをスプレーガンで吹き付け、しみついた臭いも含めて清掃

④敷料・堆肥化の工夫

- ・ 糞便排出量の低減
- ・ 乾燥茶粕、カカオハスクを混合

⑤飼料の工夫

エコフィード、消化酵素、生菌剤を活用

横浜市泉区

白井農産横浜農場

凡例



Google Earth

image © 2025 Airbus



90m

リキッド飼料が出来るまでの流れ



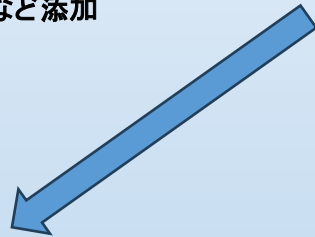
そのほか蛋白質原料、繊維原料、ビタミン、ミネラル、消化酵素などを添加



乾燥飼料が出来るまでの流れ(パン・麺・菓子・豆腐など)



そのほか、ビタミン、ミネラル、消化酵素、酪酸菌など添加



なぜエコフィードが必要なのか

- 輸入飼料への依存を減らす
- 穀物価格や為替の変動に備え、国内の食品副産物を活用します。
- 廃棄される資源を飼料に変える
- 食品事業者と連携し、利用できる原料を回収・加工します。
- 地域の中で循環させる
- **エコフィード**飼料から豚肉へ、堆肥から畑へ、資源をつなぎます。

エコフィードによる環境面の効果

食品副産物の活用

飼料として利用し、廃棄・焼却する量を減らします。

輸入原料の一部を代替

原料の製造や輸送に伴う負荷を抑える可能性があります。

豚の堆肥を農地へ

大豆や米を育て、地域内で資源を循環させます。

飼料設計による臭気対策

加熱加工済みの原料を多く使い、消化性に配慮しています。

成長段階に応じてたんぱく質と必須アミノ酸を調整し、

排せつされる窒素とアンモニアの低減に努めています。

※糞量・臭気・CO₂の削減量は測定していません。

エコフィードと「あつぎ豚」の肉質

パンや菓子などを原料として活用しながら、
豚の成長段階に合わせて飼料を設計しています。

仕上げ期には必須アミノ酸のバランスを調整。
食味や脂の質を意識した豚づくりに取り組んでいます。

原料の品質を確かめ、健康と発育を見ながら配合を調整します。



経営への効果と続けるための条件

飼料原料の選択肢が広がり、輸入原料への依存を減らせます。
食品事業者との継続的な取引も生まれます。

一方、回収・選別・加工・保管には設備と人手が必要です。
原料の成分は変動するため、栄養設計と衛生管理が欠かせません。

原料価格だけでなく、運搬費や加工費を含めて判断します。

排泄物から堆肥化、作物栽培まで



販売

生糞、カカオハスクなどを投入(消臭、水分調整)



畑に散布して大豆、麦、を栽培、2027年から子実
トウモロコシ栽培予定

今後の臭気対策への取り組み

これまでの取り組みを継続し、さらなる臭気の低減を目指します。

① 飼料の工夫と改善

エコフィードの活用、消化酵素・生菌剤の利用、アミノ酸バランスの最適化

② 豚舎の清掃・衛生管理

毎日の清掃徹底と臭気発生源の低減

③ 排水の適正処理

浄化槽の適切な維持管理と公共下水道への放流継続

④ 敷料・堆肥化の工夫

乾燥茶粕・カカオハスクの活用と適切な水分調整による臭気抑制

地域資源を循環させながら、臭気の少ない持続可能な養豚をこれからも目指してまいります。